

平成26年 火災の発生状況(速報値)

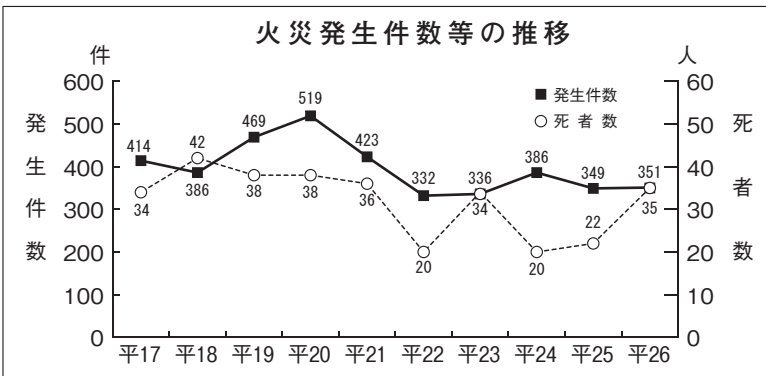
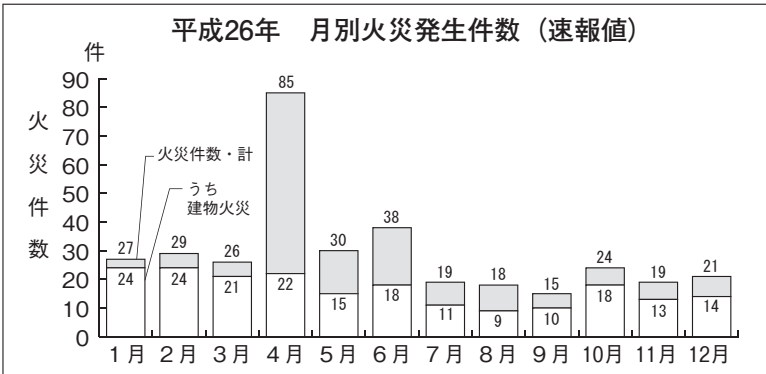
死者数35名 2年連続前年を上回る



題 字
初代会長 松野盛吉
定 価 1部 48円
(購読料は年会費に含む)

発行人
〒010-0951
秋田市山王四丁目1番2号
秋田地方総合庁舎内
秋田県消防協会
会長 中田 潤
電話 018-867-7320
FAX 018-863-5910
<http://www.shoubou-akita.or.jp>
E-mail:ask@shoubou-akita.or.jp

印 刷
〒010-0951
秋田市山王7丁目5-29
株式会社 松原印刷社
電話 018-862-8760
<http://www.matsubarainsatsu.co.jp>



(秋田県総合防災課調べ)

平成二六年中の火災発生件数は三五一件で、前年比二件増。内訳は、建物一九九件(前年比五件減)、林野四六件(同一二件増)、車輛二九件(同一〇件減)、その他七七件(同一五件増)となっている。

また、平成一七年以降一〇年間の出火件数をみると、平成二〇年に五一九件を記録したものの、概ね減少傾向となっている。一方、火災による死者数は三五名で、昨年を一三名上回った。

一般財団法人日本防火・危機管理促進協会 消防庁 全国消防長会

春の秋田県火災予防運動 4月5日～4月11日

もういいかい
火を消すまでは
まあだだよ

備えよう! 住宅用 火災警報器

このポスターは、**宝くじ**の社会貢献広告事業として助成を受け作成されたものです。

平成二七年春の火災予防運動は、『もういいかい 火を消すまでは まあだだよ』の全国統一防火標語を掲げ、四月五日(日)から一日(土)までの一週間、全県一斉に実施されます。

春の火災予防運動
四月五日～一日実施

平成二六年度全国統一防火標語
もういいかい
火を消すまでは
まあだだよ

住宅防火 いのちを守る七つのポイント

- 三つの習慣
 - 寝たばこは、絶対やめる。
 - ストーブは、燃えやすいものから離れた位置で使用する。
 - ガスコンロなどのそばを離れるときは、必ず火を消す。
- 四つの対策
 - 逃げ遅れを防ぐために、住宅用火災警報器を設置する。
 - 寝具、衣類及びカーテンからの火災を防ぐために、防炎品を使用する。
 - 火災を小さいうちに消すために、住宅用消火器等を設置する。
 - お年寄りや身体の不自由な人を守るために、隣近所の協力体制をつくる。



第38回

消防職員意見発表秋田県大会

秋田県消防長会

第三八回消防職員意見発表秋田県大会(主催：秋田県消防長会)が二月一三日(金)、秋田市の「ホテルメトロポリタン秋田」において行われました。

この大会は、若手消防職員に職責を再確認させ、消防士の在り方を提案させる場として毎年開催されています。

今大会では、県内一三消防本部から選抜された若手消防職員が、日頃の業務の中から問題点を抽出し、その対応策や今後の展望などの考察を加え、それぞれのテーマに沿って、堂々と力強く訴えていました。

審査の結果、最優秀賞に一人、優秀賞に二人が選ばれました。

■最優秀賞

大曲仙北広域消防本部

消防士 新田 理沙

私があなたの後押しをします

■優秀賞

にかほ市消防本部

消防副士長 高橋 俊二

AED新たな10年への出発

秋田市消防本部

消防士 水沢 茂樹

「いいね」で広がる消防の輪

意見発表のテーマと発表者名 (発表順)

- AED新たな10年への出発
にかほ市消防本部 高橋 俊二
- 「いいね」で広がる消防の輪
秋田市消防本部 水沢 茂樹
- 自主防災の重要性
北秋田市消防本部 津谷 崇明
- 5秒後
横手市消防本部 下総 広幸
- 小さな救命士
男鹿地区消防本部 菅原 佑太
- 私があなたの後押しをします
大曲仙北広域消防本部 新田 理沙
- 身近な予防対策
五城目町消防本部 越高 朋哉
- その手に救える力を
鹿角広域消防本部 虎渡 智実
- 地域担当制の導入
大館市消防本部 藤原 章人
- 大切な人を守る「ふり返り」
由利本荘市消防本部 小濱 慎吾
- 救急車へ献血広告を
湖東地区消防本部 秋山 剛
- 救命九年計画 ～救急車がくるまでに～
能代山本広域消防本部 成田 竜功
- タイヤの原石、自動車学校
湯沢雄勝広域消防本部 大友 翔平

最優秀賞の大曲仙北広域消防本部新田消防士は県代表として、四月二三日(木)、秋田市で開催される東北大会に出場します。

ここで、最優秀賞並びに優秀賞を受賞した意見を紹介します。

私があなたの後押しをします



大曲仙北広域消防本部 新田 理沙

「すみません、誰か来てください。」
このように音声検索するとこの画面

が出てきます。再生するとこの動画が始まります。

これは、私が作った心肺蘇生法の手順をまとめた動画です。世界中で見ることが出来るユーチューブにアップロードしました。

この動画が、ワード検索や、今のような音声検索でも呼び出し再生ができるようにしています。タブレットやスマートフォンを倒れた人の顔の横に置き、私が出てくる動画を見ながら、心肺蘇生を行うことができます。

「こうやってあなたに教えてもらいながらやれば何とか出来るけど、一人だと出来るかどうか不安だな。」



新田

「たの後押しをし」の工夫を私はいしています。一つは、「すみません、誰か来てください」という特定のキーフレーズを入れることで、検索

救命講習会で「実際に心臓マッサージをやってみてどうでしたか。」と聞くと必ず返ってくる言葉です。この会話が動画を作ろうとしたきっかけでした。私たち大曲仙北地域では、中学生、高校生をはじめ多くの人に救命講習を受講してもらい、地域の救命率向上に取り組んでいきます。しかし、その人たちは皆「一人でできるかどうか。」という不安を抱えています。せつかくの救命講習を生かせるよう、その不安を取り除くことができないかと考えたのが、スマートフォンを使うことでした。手軽に、簡単に使えるスマートフォンでこの動画を呼び、見て、聞いて、まねをしてもらい、まるで救急隊員である私から直接教えてもらっているように心肺蘇生を行う。こうすることで「一人でもやってみよう」という勇気を、後押ししてあげられると考えたのです。ユーザーでは、「心肺蘇生法」と検索すると、他にも数多くの動画が表示されますが、それらの動画にない、二つの工夫を私はいしています。

「すみません。誰か来てください。」私は、救命講習会でこう叫んで助けを呼び、人を集めるように指導しています。この呼び掛けをキーフレーズにすることで、倒れた人を目の前にした状況でも動画を早く呼び出せるようにしました。

二つ目は、無駄な説明を省き、すぐさま心肺蘇生法に取りかかることにしたことです。他の動画は、心肺蘇生の手順などが一から詳しく説明されており、一刻を争う救命の場面で使うことを想定したものではありませんでした。動画は再生すると同時に、反応の確認から呼吸の確認、胸骨圧迫心臓マッサージへと流れるように進みます。

救命講習を受けたことがない地元中学生に協力をお願いしてこの動画を試してもらったところ、スムーズに取りかかることができ、手法もほぼ正確に実施することができました。「分かりやすかった。」「まねをするだけなので、簡単にできました。」と自信に満ちあふれた顔で言ってもらい、思いどおりの効果があると確信しました。

今私は、救命講習会の最後に、この動画を紹介し、「大切な人が倒れたときは、この動画で私を呼んでください。私と一緒にその人を助けましょう。」と呼びかけています。

「目の前の人をどうにか助けたい。」と思っているあなた、私があるたの後押しをします。

さあ、皆さん勇気を持って呼びかけてください。「すみません、誰か来てください。」

AED新たな十年への出発



にかほ市 消防本部 高橋 俊 二

「この人意識がありません。一一九番をして救急車を呼んでください。」「あなたはAEDを持ってきてください。」救命講習での一コマである。

平成一六年七月に市民によるAEDの使用が認められてから十年が経過し、日本の設置台数は人口当たりで換算すると世界トップの数に達し、我々の生活においても身近なものになりつつあると言えるでしょう。

平成二五年の統計によると、目撃された心肺機能停止に対して市民により現場のAEDが使用された症例では、その四割以上の方が社会復帰しています。これは、使用されなかった症例の六倍以上であり、市民によるAEDの使用は確実に救命率の向上に成果を上げていると言えます。しかし、市民によりAEDが使用

された症例は、目撃された心肺機能停止症例の3%にしかすぎないので、市民がAEDを使用すれば救命率が向上するという事実があるにも関わらず、なぜ使用率がここまで低いのでしょうか。これまでは設置数を増やすことだけに重点が置かれ、効果的な配置は考慮されていませんでした。なぜならAEDを設置するのは会社、店舗、公共施設などであり、それらが近くにない地域では、いざという時にAED空白域となっていたのです。

このようなことを考えているときに、救命講習でのある受講者の会話を思い出し、私はハッとさせられました。「あなたの家の近くのスーパーにはAEDがあるけど、私の家の近くにはないから助からないかな」「家の隣の会社にAEDがあるけど、夜は鍵がかかっているから倒れるなら昼間だな」受講者の方は冗談のように話をしていましたが、それが現実問題なのです。市民の方はAEDの使用方法も有用性も理解しながら、自分自身の生活環境でAEDが使用できない、または使用が制限されているという問題に直面し、苦慮しているのです。大切な人が倒れた時、この問題は必ずや大きな悲しみ、大きな後悔へと変わるでしょう。

救命講習等でAEDの有用性を説明する以上は、市民の方が平等にAEDを使用することができる社会を

構築することも我々消防職員の職務ではないでしょうか。

このような社会を実現するために私は二つの「AEDポスト」の設置を提案します。

みなさん想像してみてください。郵便ポストは街中のいたるところに設置してありませんか？多くの場合みなさんの自宅から徒歩で行ける範囲にありませんか？それと同じように街中に「AEDポスト」を設置するのです。

一つ目の「AEDポスト」は、周りにAEDが設置されている施設がない住宅街などに設置するポストです。病院外心停止の七割以上は住宅で発生している状況下で施設に設置されたものだけに期待するのは限界があり、AED専用の設置場所が必要になってくると考えられます。こうすることで、近くにAED設置施設がない地域でもいざという時、すぐ手が届くところにAEDがあり使用することができるようになります。

二つ目の「AEDポスト」は、AED設置施設協力型のポストです。AED設置施設の協力を得て、既に施設に設置されているAEDを活用するのです。夜間や休日等で施錠されてしまう施設のAEDは、使用することができなくなり、宝の持ち腐れとなってしまいます。そのような時間帯は自治体が設置したポストに

収納してもらい、誰もが使用できる状態にしてもらうのです。最近は二四時間営業の店舗や夜間も稼働している工場が増えてきているものの、特に地方部ではまだまだ多くないのが現状です。施設に設置されたAEDがいつでも有効に活用されるように「AEDポスト」を設置するべきです。

AEDの使用が市民に認められて十年。この十年間でAEDの有用性が広く知れ渡り、我々も使用を促進するために啓発活動を行ってきました。しかし、地域によってAED格差が生じているのは事実です。これからはすべての人が平等に使用できるような社会を作っていくにはいけません。なぜならAEDは救命に非常に有益なものだから。大切な人が倒れた時、いつも手が届くところにAEDがある。そんな安全で安心な街を目指して。AED新たな十年への出発。

「いいね」で広がる消防の輪



秋田市消防本部
水 沢 茂 樹

私は、ソーシャルネットワークワーキングサービス、通称SNSを消防組織で活用することによる、若者をター

ゲットとした消防行政のPRを提案します。

SNSとは、利用者同士の交流を目的としたインターネットサービスです。皆さんの中でも、フェイスブックやツイッター等のSNSを利用していらっしゃる方が多いのではないのでしょうか。

SNSは個人の利用にとどまらず、行政機関が運営しているケースも多くありますが、地方の消防組織ではまだ、あまり目を向けられていないのが現状です。

タイトル中の「いいね」は、フェイスブックの利用者が掲載情報に対しての好感や興味を、投稿者や友人などに示すための機能で、ホームページにはない拡散力・双方向性が魅力と言えます。この機能はワンクリックで手軽に利用でき、何の情報にどんな数の「いいね」が集まったのかを把握することで、市民のニーズを見て取ることができます。

民間調査会社の推計によると、今や国民のおよそ二人に一人がSNSを利用していらっしゃるようです。また、若年層に広く浸透しているのが特長で、二〇代の九〇%以上が利用しているとき、SNSの活用は若者への大きなPR効果が期待できます。

これまでも消防行政のPRには力を注いできましたが、思うような効果が得られていない面もあります。

その中から、SNSの活用により改善できうる課題として、消防団員数の減少および高齢化問題を取り上げます。

消防団は地域防災力の一翼を担う重要な組織であり、平成二五年には消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律が成立。予算も拡充されました。しかし団員数の減少と高齢化は深刻で、平成元年から二六年までに全国の団員数がおよそ一四万人減少、平均年齢はおよそ五歳高くなり、若手消防団員の確保は急務と言えます。こうした現状を改善するため、若い利用者が多く、情報の拡散力や即効性の高いSNSを活用することで、若者の消防行政への関心を高め、消防団増強に繋げるべきだと考えます。

ここで、「いいね」の数を増やすためのSNS活用方法をイメージ戦略の一例として挙げ、例えば「消防精神と武士道」をテーマとします。伝統的日本文化である武士道と消防精神は相通じるものがあり、次世代を担う全国各地の若手消防団員をモデルとして、写真や動画で表現する試みです。

武士道には七つの道徳があり、現代的に訳すと「正義・勇気・思いやり・礼儀・誠実・名誉・信念」となります。この道徳を消防行政における七つの場面に置き換え、勇気であれば火災に立ち向かう姿、思いやり



秋田市消防団では、女性団員が防火教室の講師となり、たくさんのお見に対して指導しました。

女性団員が園児に指導しました!!

今回の教室では「もしもに備え、自分の身を守る方法を」として、ママとして、自分が火がつ

であれば防災訓練で住民と触れ合う姿、このような場面選定を行うことで、各消防組織の独自性を打ち出すことができます。そしてさらに、若手消防団員から同世代に向けた生の声を上げること、消防を身近に感じてもらう、市民はもとより若者の消防行政への関心が高まり、より多くの「いいね」が集まるでしょう。「いいね」が集まることで、情報が広く拡散され、既存のPRとの相乗効果が生まれること、消防行政への理解が深まり消防団増強に繋がると考えます。

消防行政をPRし、災害大国日本の国民を守るため、「いいね」で消防の輪を広げていきましょう。



協賛店表示ポスター

大館市では、「消防団員の満足度の向上」、「新規消防団員の確保」そして「地域の活性化」を目指すため、秋田県内では初めてとなる「大館市消防団応援の店」事業を二月一日から始

「大館市消防団応援の店」がスタート 秋田県内初

今後、様々な角度から火災の予防や、いざというときの対処方法を伝え、安心安全なまちづくりを推進してまいります。

いたしまつた場合の消火方法（ストップ、ドロップ&ロール）や、火災からの避難方法などについて、母親目線でやさしく、楽しく指導しました。



小澤さん 左から2人目
大志田さん 同3人目

消防庁が作成した二七年度用消防団員募集ポスターとリーフレットに、大館市消防団機能別消防団の小澤憂花さんと大志田結夏さんがモデル役として採用、掲載されました。

めましました。これは、消防団員やその家族が、事業の主旨に賛同いただいた「大館市消防団応援の店」を利用する際に「消防団員身分証明書」を提示することで、協賛店独自の割引等の特典サービスを受けられるという地域ぐるみで消防団を応援する事業です。現在、協賛店は五店で随時募集しています。

(情報提供) 大館市消防本部

消防庁のポスターにモデル役で採用される

消防庁が作成した二七年度用消防団員募集ポスターとリーフレット

トーハツ消防ポンプ
モリタ自動車ポンプ
消防被服全般
秋田県代理店

株式会社 高義商会

(営業種目) トーハツ小型動力ポンプ
モリタ自動車ポンプ
ジェットホース
消防被服全般
火災報知器各種
消火器各種



〒012-0105 本社 湯沢市川連町字万九郎屋布32
TEL(0183)(42)2125
〒012-0844 湯沢市田町 TEL(0183)(73)2588

株式会社 夕カギ

秋田県横手市寿町1番28号
TEL (0182)(32)3880

(営業種目)

日本機械自動車ポンプ | キンパイホース
トーハツポンプ | シバウラポンプ
各種消防機械器具 | 各種消火器
消防設備保守点検

ホームページ <http://www.17.ocn.ne.jp/~takagi/>
E-mail ykttkg@jasmine.ocn.ne.jp

次期総合防災情報システム 4月から正式に運用

秋田県総合防災課

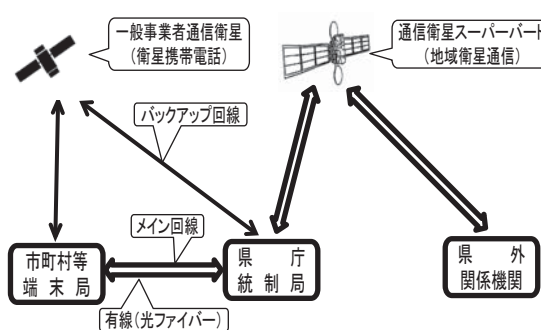
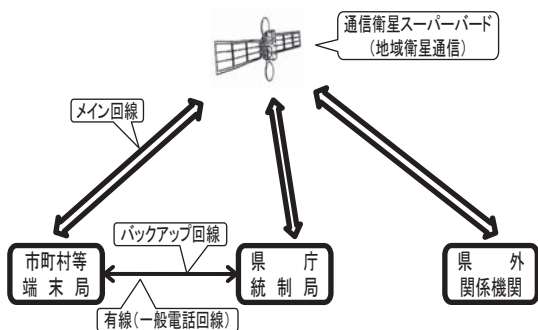
現在の「総合防災情報システム」は、平成12年度から運用しておりますが、近年、局地的な豪雨による土砂災害のほか、大規模地震、津波など顕在化する自然災害の脅威により、災害情報伝達の重要性が高まっています。

県では、平成25年度から2カ年計画で次期情報システムの再整備を進めてまいりました。このシステムは、優先通信（光ファイバー）採用による通信回線のデジタル化により、伝達速度、容量が大幅に増加し、市町村や関係機関との双方向通信や画像データの伝送等が可能となり、バックアップ回線を衛星携帯電話で多重化したことにより、災害時における通信の信頼性を確保しました。本年4月から正式運用の予定です。県民が安全・安心して暮らせる社会づくりに役立てていきたいと考えております。

現 総合防災情報システム

次 期 総合防災情報システム

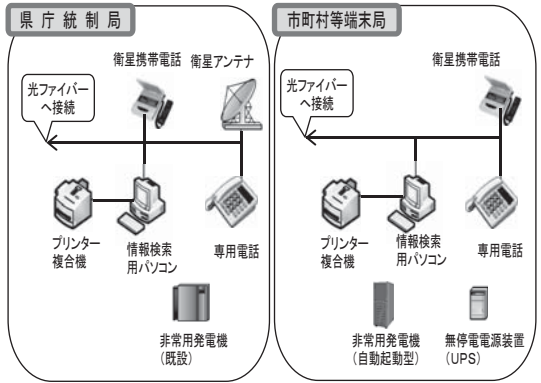
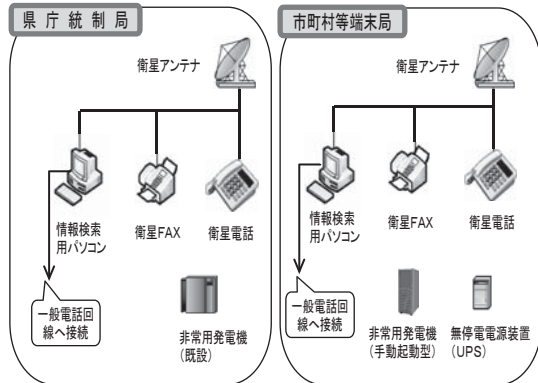
回
線
方
式



- メイン回線は、無線(地域衛星通信)
- バックアップ回線は、有線(一般電話回線)
- 県外関係機関(国、他県等)への通信には、県庁統制局及び市町村等端末局とも直接、地域衛星通信を利用

- メイン回線は、有線(光ファイバー)
- バックアップ回線は、無線(衛星携帯電話)
- 県外関係機関(国、他県等)への通信には、県庁統制局は直接、市町村等端末局は、県庁統制局を経由して、地域衛星通信を利用

設
備
内
容





- 気象予警報及び災害情報は、地域衛星通信を利用して衛星FAX、衛星電話で受信
- 気象状況等により地域衛星通信を使用した通信が途絶えた場合には、一般電話回線で情報検索パソコンへ代替配信
- 市町村等端末局は、停電時に手で非常用発電機を起動し接続(約7時間稼働)
- 県庁統制局は、県庁第二庁舎に設置してある既存の非常用発電機へ接続

- 気象予警報及び災害情報は、光ファイバーで情報検索用パソコン、専用電話で受信し、衛星FAXの代替としてプリンター複合機を使用
- 地上災害により光ファイバーを使用した通信が途絶えた場合には、衛星携帯電話にて代替配信
- 市町村等端末局は、自動起動型の非常用発電機を設置することによって、人の手を介さずに起動し接続(約72時間稼働)
- 県庁統制局は、県庁第二庁舎に設置してある既存の非常用発電機へ接続

【端末局内訳】
 県機関端末局(15カ所)、市町村端末局(28カ所)
 消防本部端末局(11カ所)、国機関端末局(2カ所)

◆ 消 防 団 員 研 修 ◆

秋田県消防学校

第1期幹部教育指揮幹部科分団指揮課程			第60期基礎教育			
平成27年2月28日(出)～3月1日(日)			教育期間	平成27年3月7日(出)～8日(日)		
41人 (21消防団)			入校者数	21人 (6消防団)		
分団長、副分団長の階級にある者			対象者	入団して概ね3年未満の消防団員		
			集合写真			
消防団名	階 級	氏 名	入 校 者 名 簿	消防団名	階 級	氏 名
鹿角市	分 団 長	兔 澤 秀 隆		鹿角市	団 員	佐 藤 忠 雄
大館市	副分団長	日 景 一		鹿角市	団 員	石 井 丈 也
北秋田市	分 団 長	佐 藤 清 則		北秋田市	団 員	近 藤 直 宜
北秋田市	副分団長	武 石 稔		男鹿市	団 員	武 藤 工
上小阿仁村	分 団 長	小 林 豪 夫		男鹿市	団 員	吉 田 洋 平
能代市	分 団 長	吉 田 孝 悦		男鹿市	団 員	三 浦 育 美
能代市	副分団長	簾 内 由 雄		八郎潟町	団 員	吉 田 正 吾
三種町	分 団 長	寺 沢 梶 人		八郎潟町	団 員	石 川 学 斗
三種町	分 団 長	成 田 浩 美		由利本荘市	団 員	佐 藤 透
男鹿市	分 団 長	高 桑 剛		由利本荘市	団 員	戸 賀 瀬 章 広
八郎潟町	副分団長	渡 部 浩		由利本荘市	団 員	大 友 司
秋田市	分 団 長	小 野 甚 左 衛 門		由利本荘市	団 員	正 木 達 馬
秋田市	分 団 長	佐 藤 勇 二		由利本荘市	団 員	小 野 直 樹
秋田市	分 団 長	伊 藤 公 成		由利本荘市	団 員	加 藤 亮 勝
秋田市	分 団 長	鶴 田 一 成		由利本荘市	団 員	真 坂 泰 良
秋田市	分 団 長	角 田 茂 央		仙北市	団 員	佐 藤 弘
由利本荘市	分 団 長	柴 田 晃 之		仙北市	団 員	草 薨 信 人
由利本荘市	分 団 長	小 松 典 隆		仙北市	団 員	佐 藤 慶 祐
由利本荘市	分 団 長	佐々木 利 憲		仙北市	団 員	荒 川 光 典
由利本荘市	分 団 長	藤 原 正 一		仙北市	団 員	山 田 勝 弘
由利本荘市	分 団 長	渡 辺 静 毅	仙北市	団 員	辻 吉 広	
にかほ市	分 団 長	佐 藤 幸 一	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center;"> <p>消 防 半 天 ・ 帯 ・ 団 旗 優 勝 旗 ・ ゼ ッ ケ ン 手 拭 ・ タ オ ル ・ の れ ん 旗 幕 類 名 入 染 物 専 門</p> <p style="font-size: 2em; font-weight: bold;">寺 田 染 工 場</p> <p>横手市清川町 ☎32-0416</p> </div>			
にかほ市	分 団 長	佐々木 雄 晃				
にかほ市	分 団 長	齋 藤 敏 彦				
大仙市	副分団長	渡 邊 敏 彦				
仙北市	分 団 長	鈴 木 正 彦				
横手市横手	分 団 長	堀 江 彰 進				
横手市増田	分 団 長	白 澤 馨 司				
横手市平鹿	分 団 長	福 岡 敬 司				
横手市平鹿	分 団 長	藤 井 利 廣				
横手市平鹿	分 団 長	佐々木 廣 山				
横手市大森	副分団長	菊 地 寿 美				
横手市十文字	副分団長	近 野 春 美				
横手市大雄	副分団長	野 原 仁 一				
湯沢市	分 団 長	近 野 久 一				
湯沢市	副分団長	高 橋 久 一				
湯沢市	副分団長	菅 茂				
湯沢市	副分団長	西 村 一				
湯沢市	副分団長	林 崎 隆 一				
東成瀬村	分 団 長	佐々木 喜 久 蔵				

支部情報アラカルト

『大地震における
情報伝達訓練を実施』

Ⅱ にかほ市消防団Ⅱ

平成二六年秋の火災予防運動初日、にかほ市消防団では、秋田県沖を震源とした「大地震における情報伝達訓練」を実施しました。

訓練には、消防団幹部一八名、にかほ市消防団二〇部四三班の計九二名、合計一〇名が参加し、震災活動要領の解説、机上における警防指揮本部、各分団、各部班の情報収集・伝達方法、指揮命令系統の確認と技術の向上に努め、消防本部との



連携を確認しました。

訓練では、大地震発生、大津波警報発令、火災発生、救急車出動等…。震災時の初動体制から、指揮本部と各分団に

分かれての震災活動を机上にて実施。海沿いを管轄する分団と、山間部を管轄する分団での活動要領の違いなどを実際に時間経過とともに体験することで、刻々と変化する現場状況と、災害への対応を訓練しました。

警防指揮本部では、飛び交う情報を素早く処理伝達し、有事の際の活動要領を再確認しました。

にかほ市消防団では、災害に強いまちづくりを目的とし、市民のため日々励んでおります。

(情報提供Ⅱ由利本荘にかほ支部)



平成二七年度

秋田県山火事予防運動

この運動は、山火事が多発する春季において、県民一人ひとりに山火事予防思想の普及を図り、森林資源と自然環境の保全に努めることを目的に実施するものです。

■統一標語
伝えよう

森の大事さ

火の怖さ

■実施期間

平成二七年四月一日(水)から

五月三二日(日)までの二ヶ月間

火災の発生状況(速報値)

(秋田県総合防災課調べ)

	平成27年		平成26年			同期比較	
	2月	累計	2月	累計	年計	2月	累計
建物	17	38	24	48	199	- 7	-10
林野	0	0	0	0	46	0	0
車輛	5	9	3	5	29	2	4
その他	0	2	2	3	77	- 2	- 1
合計	22	49	29	56	351	- 7	- 7
死者数	3	10	5	10	35	- 2	0
負傷者数	9	22	11	22	61	- 2	0

森田ポンプ ラビットポンプ
桜ホース・ソフト吸管 消防被服一式
各種消火器 消防機器一式

株式会社 能代消防センター
株式会社 協立

〒016-0814 能代市能代町字中川原33番地57
TEL (0185) (52) 6494
(52) 6361

地域の防災、災害対策に貢献!

消 防
ポンプ自動車
小型ポンプ
ホース

設 備
火災報知器
スプリンクラー
消火器

猿田興業株式会社

秋田市山王六丁目1番24号 TEL 018 (863) 1551(代)
山王セントラルビル7F FAX 018 (824) 3651